

## 力キ盛漁期へ

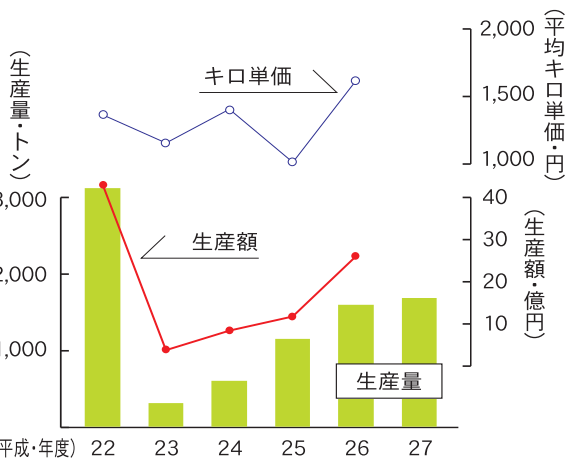
### 身入り早く大幅増産も

高橋部会長「いいものを全国に」

鮮力キの共販が10月6日に始まり、これから盛漁期を迎えます。昨シーズンを100トほど上回る1700ト弱の出荷が見込まれますが、当初の身入りが震災後最もいい上、目立ったへい死やシケ被害もないことから、これより大幅な増加が期待されます。

鮮力キシーズン実績と今季生産見込み

(共販・9～5月)



身入りよく盛漁期に向かう力キ



昨シーズンは震災後初めて一息つける漁期でしたが、生産量は震災前の半分以上にとどまり、むき子も足りません。生産者は今期になっても434人と震災前(平成



高橋文生部会長

価格は、11月上旬から出荷活発化が予想される。広島県産などの兼ね合いがポイントになりそうです。昨シーズンは宮城産が身入りで勝って引き合いが全国的に強まり、売り場も広がって供給が不足、共販の平均キロ単価は1620円と記録的な高値になりました。

今季は(9月上旬の)台風に伴う波とうねり、雨も多く力キの刺激となつて放卵が進み、身入りが例年より早く上がった。身入りがいいので生産量が増えるし、力キを

やると決めた人がそろつたこともあり、2千ト弱まで伸びるとみている。価格面では、よくても1200円くらい、悪くても1000円くらい、震災前の養殖に戻るには課題が少なくありません。

に伴って減ったし、仮設が遠く通って来れない人もいます。むき子をどう育てるか課題だ。街場から募集すればある程度来てもらえるが、(牡蠣)半島方面などは地元の人頼みになつてしまつた。

### 経営戦略と事業運営 藤崎特別顧問に聞く



藤崎義博特別顧問

秋も深まり、組合員、役職員の皆さまとともに、私たちの組合のこれからの歩み方を考えてみることにしました。「組合の経営戦略と事業運営」というテーマで、藤崎義博特別顧問に聞きました。

### 「いまこそ変革の時」

グになった。生産基盤がほぼ復旧し、販売力強化の取り組みも始まった。合併以降、漁協全体をまとめるルールや考え方が欠けていたが、今後にかあるべきかを考え、組織としての一体感、安定感を高める方向で変革を進め、時代の激しい変化に臆せず対応していくことが求められている。

が大事になる。震災特例優先出資が66億8千万円、それ以前の県の優先出資が5億円あり、これらがないと組合の自己資本比率は9%台後半になってしまい、マリンバンクの信用事業規制を受ける。優先出資を返済しても12%あれば資本勘定で8億円の余裕ができ、経営の安定度も増し、次の目標に向かった投資も可能になる。

の支所が曜日限定の店舗になったことで、事業推進体制が弱くなった。これを強くしていく。このため、ATM(自動現金預け払い機)から定期を預けるようにしたり、金利上乗せキャンペーンなどを実施。総合支所、支所での声掛けやお知らせにも力を入れていく。無

に余裕がなく、養殖をやめた人の漁場をやる気のおう盛んな人に貸し与えている。半島方面などでもそうできるのでは。

現状認識から。藤崎義博特別顧問 合併から8年が経過し、途中で東日本大震災があつた。震災で繰越欠損金は26億円まで膨らんだが、平成26年度決算で解消した。こんなに早く解消できると思っておらず、

驚きとともに、組合員のご努力と職員の献身的な仕事ぶりに敬意を表したい。また全国の漁協システムをはじめとする多大なご支援への感謝を忘れてはならないと思っている。

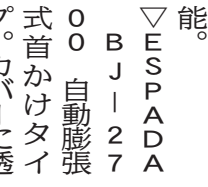
いまこそ変革の時と考える。そういうタイミングで、職員は協同組合運動のパートナーである。協同組合として組合員は無

まず役員層が何を考えているか職員にきちんと伝わり、支所、本所が何をやっているか互いに分かるという環境をつくることから始めたい。

で、時代の変化に対応するには投資も必要だ。そのためには財務力

にしたい。今後はこれを







今は秋サケ刺網の真っ最中。「宮城のサケはどこにも負けない」と胸をはる



## 志津川支所・星勇さん



星勇（いさみ）さん（47）は、愛船第七松島丸（97ト）とともに、冬はタラ刺網、春はコウナゴのランプ網、夏はタコかぎ、秋は秋サケの刺網を営む。昨年からはタコ漁が不振のため、こ

## 魚を高く売る工夫を地域全体で考えたい

はタコかぎを休んで沖合の刺網でタラやカレイを狙った。この地で3代目の漁師。物心ついたときから漁師になるものと自然に思っていた。父・叔父の乗る先代船に理由をつけては乗り、学校をサボっていたという。中学を出て16歳で漁師に。秋サケの刺網に従事した。「昔は単発的な漁はあつても、暇な時期もあった。今のうちに年じゅうコン

スタントに揚がり、経営が安定するようになったのは「15年くらい」という。現在の船は、震災のわずか6日前に進水式をしたばかりだった。岸壁で艀装（ぎそう）をしていては乗り、学校をサボっていたという。中学を出て16歳で漁師に。秋サケの刺網に従事した。「昔は単発的な漁はあつても、暇な時期もあった。今のうちに年じゅうコン

趣味は「海に行くこと」。海をこよなく愛する星さんにも、いくつか心配事がある。まずは水

温の上昇。最近明らかに魚の種類や獲れる時期が変わっていることを実感する。そして地元市場。建物も復旧しても、仲買が被災して減ってしまった。自分たちも震災後は石巻などの大きな市場に売りに行くことが多く、地元市場が衰退するのではと心配。さらに震災後の深刻な乗組員不足。健全な経営のために乗組員の確保が前提だ。

漁業も資源保護を考えると、昔のように獲れるだけ獲ることはなくなった。それはいいことだと星さんと思う。だからこそのかに単価を高く売ることが鍵。燃油や資材のコストも高くなり、漁獲量が制限されているなら、1尾1尾を高く売る努力をしていかなければいけない。震災後漁具も船も立派になり、技術も上がったが、魚は上がっていない。買う人がどんな処理をした魚を望むのかを、漁師も勉強しなくてはならない。組合などの指導のもと、漁業に関わるみんなで、南

三陸志津川流で魚を安定

的に高く売る工夫を模索している。23歳の娘と高校1年の息子。息子は漁師になるようなことはいっ

## 住宅建設・再建をご検討の皆さま

## 住宅ローンはJFみやぎで！

☆取扱商品は3種類☆

- ①KHL保証型住宅ローン
- ②漁業者等住宅ローン
- ③住宅金融支援機構（災害復興住宅融資）

組合員の皆様には、上記商品のいずれかをご選択の上、ご利用頂けます。詳しくは最寄りの支所・総合支所へご相談ください。

お使いみち	住宅の新築・購入、増改築、補修、他金融機関からの借換並びに宅地の購入
ご利用頂ける方	借入時年齢:20歳以上70歳 最終償還時年齢:80歳 返済可能な収入(所得)のある方
ご融資金額	5,000万円以内
ご融資期間	35年以内
ご返済方法	元金均等返済・元利均等返済(毎月・隔月・年2回・年1回)
担保	ご融資対象物件に対して原則として第1順位の抵当権を設定させて頂きます
保証	当組合所定の保証機関の保証を受けていただきます
ご融資金利	固定変動金利型・変動金利型・固定金利型の中からご選択ください

## 漁業の特殊性を理解したJFだから安心借入れ

東日本大震災から4年7カ月が経過しましたが、県内住宅再建状況はいまだ復興半ばです。当組合では、被災された組合員の皆さまの安定した漁業経営の礎となる住宅再建のお手伝いを第一と考え、3種類の住宅ローンをご用意しています。▽KHL保証型住宅ローン▽漁業者等住宅ローン▽住宅金融支援機構（災害復興住宅融資）―自分に合った、無理のない借入れを選択できます。震災以降140件ほどの住宅ローンを受け付けてきました。漁業は水揚げや単価、天候などにより所得が大きく変動する特殊な業種です。そのことをよく理解している漁協だからこそ、長い返済期間に起こるさまざ

## 「浜っこかあちゃん市」



仙南支所巨理支部女性部

## とうちゃんの魚に付加価値

丹ナたちが獲ってきた魚のうち、余ったものの、市場に出ないものに付加価値をつけて販売するのが目的。マガレイの唐揚げ、エビのかき揚げ、メロウドのつくだ煮、季節にははちみつやほっつきめしなど、自慢の品を提案してきた。なかでもシタビラメのさつ

ま揚げは人気。ミンチにし臼で練って野菜を入れふくらませる。震災で4人の仲間を亡くし、活動の場も資材も流されたが、昨年、仙南支所も入る水産センターができた。鳥の海ふれあい市場」の移転と同時に再開。20人いた仲間もばらばらになり、現在は部長の木村光子さんと白井富士子さん、小倉京子さんの3人で切り盛りする。白井さんと一緒にさつま揚げの味付けをしていた相棒も亡くしてしまっ

「飽きないよう、なるべくいろいろな種類を作る」と木村部長。白井さんは「このカレイは、とくに7、8月には脂が乗っていて、どう食べてもおいしい」と、浜の魚に絶対の自信をもっている。毎週土曜、「かあちゃん」たちは9時ごろからセンターの調理場で作業を始め、あつあつをすぐ店頭へ。70、80パックがお昼にはほぼなくなる。震災前からのお客さんが仙台などからも買いに来る。ふわとろの濃厚な味わいにサクサクの衣が絶妙で、口コミで広まり、魚をさばくのが苦手な主婦に喜ばれている。



「浜っこかあちゃん市」を守り続ける白井富士子さん、木村光子部長、小倉京子さん（左から）

仙南支所巨理支部女性部の3人がメンバーとなる水産加工研究会は、産直施設「鳥の海ふれあい市場」で地元・荒浜の魚を使った総菜を販売している。名づけて「浜っこかあちゃん市」。旧巨理支所婦人部が平成11年から始めた活動だ。

ま揚げは人気。ミンチにし臼で練って野菜を入れふくらませる。震災で4人の仲間を亡くし、活動の場も資材も流されたが、昨年、仙南支所も入る水産センターができた。鳥の海ふれあい市場」の移転と同時に再開。20人いた仲間もばらばらになり、現在は部長の木村光子さんと白井富士子さん、小倉京子さんの3人で切り盛りする。白井さんと一緒にさつま揚げの味付けをしていた相棒も亡くしてしまっ

た。臼を使っても40分かかる「練り」は、手で、しかも3人ではままならず、さつま揚げは中断中。加えて、震災前に水揚げされていた豊富な魚種が獲れなくなり、シタビラメもあり揚がらない。それでも、浜に揚がる魚を吟味して、いつかさつま揚げを復活させたいと白井さんはいう。現在のメニューは、カレイの唐揚げ、カナガシラやメゴチ、ヒラメの天ぷら、ナメタガレイの唐揚げなど、獲れた魚をみながら決める。

## 組合からのお知らせ

## 信用共済部

まな変化にもご相談に乗ることが出来ます。一刻も早い住宅取得を待ち望んでいる組合員の皆さまのお役に立つことを目的としておりますので、お

気軽に各総合支所、各支所までお尋ねください。プレゼントがうれしい全国統一キャンペーンJFマリンバンクで

は、11月と12月の2カ月間、全国統一キャンペーンを実施します。定期貯金（積立定期を含む）・定期積金の1年以上の純増、新規のお客さ

ま、および年金受給の新規口座指定のお客さまを対象に、今治のタオルやカタログギフトをプレゼントします。お一人さま1回限り、先着順です。

キャンペーン期間中は、ラジオの東北放送7時25分からの「JFマリンバンク海の天気予報」でさかなクンによるPRも行います。



